

放送大学に学んで

はしがき

放送大学は放送大学学園（文部科学省・総務省所管）によって設置された正規の通信制大学です。現在、約9万人の学生がラジオ、テレビ、インターネットなどを通じて学んでいます。学部では124単位取得すれば学士（教養）の学位が取得できます。大学院には修士課程と博士課程も設置されています。入学機会は4月1日と10月1日の2回あり、これに対応してその前にそれぞれ3ヶ月余の学生募集期間があります。この間、ラジオ、テレビ、インターネット、ポスターなどのさまざまな媒体を通じて学生募集が行われます。なんとといっても学生募集の最前線は全国47都道府県に設置された学習センターにあります。各センターの職員はさまざまな施設や機関を訪問し、学生募集要項を配付したり、ポスターを貼ったり、展示会を開催したりと奔走する日々が続きます。それぞれの地域をくまなく訪問するのは並大抵のことではありません。

また、放送大学の何たるかを知ってもらおう機会にと講演会やセミナーなども開催します。さらに、詳細を聞きに学習センターに来られる方々の相談にものります。入学手続きのお手伝いもします。ところが、これほど手間暇かけて広報活動を展開しても、放送大学の知名度は意外に低いのです。放送大学関係者の間には、一般の人は「放送大学とは放送関係の業務に携わる人材を養成する教育機関」であると理解しているという笑い話が流布しています。ことほどさように放送大学は知られていないのです。どうすれば放送大学の素顔を知ってもらえるのか、おおいに悩むところです。

ところで、高校卒業時に家庭の事情等で進学をあきらめたが、仕事や子育てが一段落した機会に長年あこがれていた大学に入学したいという方は存外多いものです。また、さまざまな資格を取得するために入学を考えている人も少なくありません。そのような方々には仕事や家事をしながら、いつでもどこでも、しかも比較的安価に学べる放送大学はうってつけですよとお薦めします。しかし、その多くが「私なんかに大学での勉強についていけるでしょうか」と不安を吐露されます。「いや、大丈夫ですよ。同じような経歴や年齢の方もたくさん学んでおられ、みごとに卒業して学士（教養）の学位を取得されていますよ」と説得するのですがなかなか踏み切りがつかないようです。「もう少し考えてからにします」と二の足を踏まれる方や、「そうはいわれても自信がありません」と尻込みされる方が多い。このような方々に一歩踏み出していただければと願うのですが、その方策がなかなか思い浮かびません。

そこで学生募集に際して放送大学の生きた姿を知ってもらうために、入学を希望されつつももう一步踏み出せない方々の背中を押すために、さらには、勉学に行き詰まったり、悩んだりしている在學生を鼓舞激励するために、卒業生や在學生の学びの体験談を聞いてもらおう。そうすれば「あつ、これなら私にもできそう」、「悩んでいるのは私だけではないのだ」、「そうか、こういう方法もあるのか」などと思ってもらえるのではないか。そう考えて本書を刊行することになりました。中国四国の鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知の9つの学習センターの卒業生や在學生に原稿を依頼したところ、たちまちの内に80編を超える玉稿が集まりました。そのいずれもが「人はなぜ学ぶのか」、「学びによって何が得られるのか」、「学ぶとはどういうことなのか」、「学びの喜びとは何か」、「学びと人生の関わりは」などなど、学びの本質に迫る珠玉の体験談でした。その結果、はからずも上記の本書刊行の目的をはるかに越え、生涯学習、成人教育とは何かをあらためて考えさせられる一書になりました。

放送大学の学習センターには、10歳代から90歳代までの老若男女の學生のみなさんが在籍しています。みなさんが日々、学習センターに来て、あるいは自宅等で懸命に学習に励む姿を見て、われわれは「この熱意はどこから来るのだろうか」と考えてきました。もちろん、学士号や修士号等の学位や資格を取得する目的はあるでしょう。しかし、それらを取得した後も再入学して学ぶ人、あるいは資格取得は目指さず、学問する純粹な喜びで学ぶ人も多いのです。

実際に放送大学で学び、様々な苦労や困難を乗り越えて新たな高みに到達した學生のみなさ

ん、あるいは今も懸命に学んでいるみなさんの生の声には胸を打つものがあります。本書の編集にあたったわれわれ自身、皆さんの体験記を読むことで大きな感動を受けました。学ぶという営みは、過去とは違う新しい自分になる行為です。学ぶことを通して、単に知識を得るだけでなく、他人の悲しみや痛みを理解し共感しうる新たな自分（「教養ある人間」）になれるのです。本書はそのことを雄弁に物語っています。

本書は三部から成っています。第Ⅰ部には学生の学びの体験記をいくつかのカテゴリーごとに収録しています。第Ⅱ部にはこれまでに報道・記録された学生の声を、学位記授与式での謝辞、文部科学教育通信や各学習センターの機関紙等に掲載された記事、および新聞記事などから選びまとめられています。そして第Ⅲ部には学習センター所長からの学生へのメッセージを収録しています。

放送大学関係者のみならず、ぜひ多くの方々に本書をご一読いただき、このような真摯な学びの姿や学びの場があることを知っていただければと願っています。もちろん、これをきっかけに放送大学の門をたたいていただければ、これにすぐる喜びはありません。

なお、一般読者に本書の内容をご理解いただくうえで最低限必要な放送大学に関する事項を以下に記しておきます。

放送大学には教養学部教養学科「生活と福祉」、「心理と教育」、「社会と産業」、「人間と文化」、「情報」、「自然と環境」の6つのコースが設けられています。学生には「全科履修生」、「専科履修生」、「科目履修生」の種別があります。全科履修生は6つのコースのいずれかに所属して4年以上在学し、所定の124単位以上取得すれば卒業が認定され、学士(教養)の学位が授与されます。必ずしも大学の卒業を目的とせず、自分の興味関心に基づいて一定の科目を選択し履修を希望する者は専科履修生(1年間在学)、または科目履修生(6ヶ月間在学)として入学できます。6つのコース全てを卒業した学生は「グランドスラム達成者」あるいは「名誉学生」と呼ばれ、NHKホールで挙行される学位記授与式で学長から表彰状が贈られます。

大学院修士課程には「生活健康科学」、「人間発達科学」、「臨床心理学」、「社会経営科学」、「人文学」、「情報学」、「自然環境科学」の7つのプログラムが、大学院博士後期課程には「生活健康科学」、「人間科学」、「社会経営科学」、「人文学」、「自然科学」の5つのプログラムが設けられています。修士課程は2年以上、博士課程は3年以上在学し、各プログラムが開設する所定の科目を履修すると共に、修士論文または博士論文、および口頭試問の審査に合格すると、それぞれ修士(学術)、博士(学術)の学位が授与されます。

所定の単位を取得すると学部では「認定心理士」、「学芸員」、「上位・他教科等の教員免許」、「栄養教諭免許」、「社会教育主事」、「図書教諭免許」など、大学院では「臨床心理士」など、さまざまな資格を取得することができます。また、「看護師」、「税理士」、「社会保険労務士」、「保育士」

などの国家試験の受験資格を得ることもできます。

放送大学ではテレビ、ラジオ、インターネットなどで配信される放送教材とテキストを併用して学習します。放送大学には各県に学習センターが設置されています。学習センターではCD、DVD、インターネットなどによる放送教材の視聴や閲覧ができます。また、教員との対面授業である面接授業、セミナー、講演会も開催されています。さらに、サークル活動、学園祭、研修旅行などが実施されています。

大平文和・吉倉紳一・安原義仁

第1部 このように私は学んだ

3

1章 学ぶ喜びと楽しみ

5

放送大学生活を満喫する……………	小林忠夫	5
学びから広がる世界、そして挑戦へ……………	三ツ國全代	8
初心忘るべからず……………	西本弘之	12
宇宙の真理を求めて……………	廣瀬文江	16
学びのサイクル再回転……………	納所裕美子	19
働きながら学びを楽しむ……………	稲垣靖之	21

2章 学びへの再挑戦

学業中断からの再出発、そして大学院へ……	松川淳一	25
生涯学生……	杉本光伸	29
知は力、学ぶことは生きること……	山本良一	33
学び続ける……	宮地豊二	37
学びの勢いとタイミング……	加幡秀樹	41

3章 資格ステップアップ

看護学学士をめざして……	十亀亜都美	44
私が学び続ける理由……	門脇ちおり	48
学んだことを社会に生かす……	小西光子	52
大学教員を目指す……	坂東史郎	56
学芸員資格取得と観光ボランティアガイド……	曾我古世	60
教育研鑽制度に放送大学を活用する……	筒井二千六	66
岐阜女子大学での博物館実習体験……	伊東正明	68

4章 退職後の生活を豊かに

我が来し方と行く末	宮北 薫	73
資金運用から経済学、そして「人間と文化」の学習へ	岸本斉子	77
学習センター事務職員と学生を兼ねつつ	竹本義邦	79
定年退職後に地元に戻って	串田憲泰	83
やれば誰でもできる	喜田智代子	87

5章 障がいを乗り越えて

障がいと共に	廣瀬絵理	91
卒業を目指してコツコツと	室崎若子	94
大病から生還したあの日から	上村加代子	97

6章 グラントスラムを達成して

グラントスラム達成後も学び続ける	本庄則子	101
名誉学生表彰を受けて	大野久美子	105
さらなる「情報コース」への挑戦	藤本芙佐子	109

7章 卒業研究・修士論文・研究活動

卒業研究に取り組んで……	篠原知子	113
放送大学の春秋……	戸梶美香	117
ドン・キホーテは諦めない―博士後期課程の挑戦と学び……	福頼尚志	121
大学院を修了して得たもの……	木谷早苗	125
学びを継続して大学院へ……	品川隆博	129
修士論文の作成に取り組む……	本井伝義則	133
尊敬する教授との出会い……	柴田洋子	137
研究活動の継続を求めて……	坪郷浩一	139
放送大学と「縮小社会研究会」……	小川正嗣	142
学習センターで学びつつ教えつつ……	藤江義輝	147

8章 サークル活動をとおして

サークル活動をとおしての自立的学び……	土居房子	150
みあげてごらん！……	清水道代	154
学びの広がり……	土谷和生	159
インドネシア語クラブ「修学旅行」記……	王子喜市	163

第Ⅱ部 報道・記録された放送大学の学生

9章 学位記授与式での謝辞にみる学生の声

自閉症の息子に寄り添いつつ……………	瀧澤由紀子	168
マイペースで学ぶ……………	石倉八千代	171
学ぶに遅すぎることなし……………	國澤喜久子	174
自由な学びと学ぶ意志……………	安永 梓	176
継続は力……………	安原純子	179
夢のような大学……………	豊嶋清美	181
大学院を修了して……………	大林弘規	183
科学を体系的に学ぶ……………	坂本 彰	186

10章 『文部科学教育通信』と機関紙から

大学生になれた私……………	松崎留実	189
往復5時間のタイムトンネル……………	野地ちえみ	193
学ぶことで広がった世界と結ばれていく絆……………	徳田育子	196
知ハ河水ノ如ク……………	田村佳敬	199
わが残りの人生に光明を得た……………	竹下靖彦	202
二度目の通信教育―異質なる二つの学び……………	坂本 明	205
励まされながら勉強……………	加藤一郎	207
それはボランティア活動から……………	上田裕子	209
生活の一部、生きがいの一つ……………	木幡鞆夫	212
生涯学習としての放送大学……………	稲谷吉彦	215
リストラから再スタートしつつ学ぶ……………	瀬木寛親	217
「卒業研究」は広がっていった……………	増原久子	219
夫婦で共に……………	津村明甫・津村豊子	223
東日本大震災災害派遣―危機管理の現場に立ち会って……………	橋向亮介	226
涙を乗り越えて卒業……………	立脇寿江	229
楽しみながら学ぶ……………	倉増恵子	232

11章 新聞記事から

93歳生涯勉強(中國新聞).....	沖 秀雄	234
衰えぬ学びへの情熱(徳島新聞).....	清水伎市	236
76歳「生涯学生」(中國新聞).....	平山英子	238
学問はやればやるほど、面白さを実感(徳島新聞).....	篠原一二三	240
たゆまぬ努力実る(四国新聞).....	山元圭介・本庄則子	242
81歳の修了生(徳島新聞).....	片山正晴	244
学びを心の糧に(日本海新聞).....	林 哲博	246

第Ⅲ部 学習センター所長からのメッセージ

12章 学位記授与式での式辞とエッセイから

中国の放送大学訪問記.....	鳥取学習センター所長	小林 一	251
「向き合うこと」・「かわり合うこと」を基本にして.....	島根学習センター所長	佐々有生	254

放送大学がめざす教養教育……	岡山学習センター所長	岡田雅夫	257
私の最近の旅行術……	広島学習センター所長	安原義仁	260
「学び」とは……	山口学習センター所長	阿部憲孝	264
焦らず、慌てず、諦めず……	徳島学習センター所長	大西徳生	268
「学び」とは自分を変化させること……	香川学習センター所長	大平文和	271
生涯学びつづけることの大切さ……	愛媛学習センター所長	村上研二	276
新しき自分と一歩……	高知学習センター所長	吉倉紳一	279

13章 放送大学への期待

283

放送大学への期待……	広島学習センター所長	安原義仁	283
------------	------------	------	-----

編集後記……			292
--------	--	--	-----

【編集委員紹介】

大平文和（おおひら ふみかず）

放送大学香川学習センター所長・香川大学名誉教授。

1949年香川県生まれ。1975年大阪大学大学院工学研究科修士課程修了。1989年工学博士（大阪大学）。

1975年日本電信電話公社（現、日本電信電話株式会社）入社。光エレクトロニクス研究所主席研究員、研究部長等を歴任し、2000年同社を退社。2000年から香川大学教授、香川大学工学部長、理事等を歴任。2014年4月から現職。専門は知能機械工学、マイクロテクノロジー。

主要著書に『電子情報通信のメカトロニクス』電子情報通信学会（共著）、『マイクロマシン』産業技術サービスセンター（共著）などがある。

吉倉紳一（よしくら しんいち）

放送大学高知学習センター所長・高知大学名誉教授。

1950年滋賀県生まれ。1975年大阪市立大学大学院理学研究科修士課程修了。1984年理学博士（大阪市立大学）。

高知大学文理学部助手、高知大学理学部教授、高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科（博士課程）教授を経て2015年4月から現職。この間、高知大学理学部副学部長、高知大学評議員、高知大学副学長（教育担当）、高知大学総合教育センター長等を歴任。専門は地質学・岩石学。

主要著書に『日本地方地質誌・四国地方』朝倉書店（共著）、『日本地方地質誌・近畿地方』朝倉書店（共著）、『最新・高知の地質 大地が動く物語』南の風社（編著）などがある。

安原義仁（やすはら よしひと）

放送大学広島学習センター所長・広島大学名誉教授。

1948年広島県生まれ。1975年広島大学大学院教育学研究科博士課程中退。広島大学大学教育研究センター助手、国立教育研究所室長、広島大学大学院教育学研究科教授等を経て2011年4月から現職。この間、広島大学評議員、大学評価・学位授与機構運営委員、広島大学附属小・中・高等学校校長を歴任。専門はイギリス大学史・高等教育。

主要著書に *The Origins of Higher Learning*, Routledge, 2016（共著）、『国家・共同体・教師の戦略—教師の社会史—』昭和堂（共編）、2006年、R.D. アンダーソン『近代ヨーロッパ大学史—啓蒙期から1914年まで—』昭和堂、2012年（共監訳）などがある。

放送大学に学んで——未来を拓く学びの軌跡

〔検印省略〕

2017年3月25日 初版第1刷発行

*定価はカバーに表示してあります。

編著者 © 放送大学中国・四国ブロック学習センター 発行者／下田勝司

印刷・製本／中央精版印刷株式会社

東京都文京区向丘 1-20-6 郵便振替 00110-6-37828

〒113-0023 TEL (03) 3818-5521 FAX (03) 3818-5514

発行所
株式会社 **東信堂**

Published by TOSHINDO PUBLISHING CO., LTD.
1-20-6, Mukougaoka, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0023 Japan
E-Mail : tk203444@fsinet.or.jp <http://www.toshindo-pub.com>

ISBN978-4-7989-1420-6 C1037

©The Chugoku-Shikoku Regional Study Centers, The Open University of Japan